

平成29年度 学校評価アンケート結果の概要

(1) 本年度教育方針に活用した昨年度(平成28年度)学校評価のポイント

▼**高めたい力**…学校評価での実現度が低い状況，実態として不十分と思われる状況

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 主体的な学習姿勢
- ・ 家庭学習習慣の定着
- ・ 身近な人権感覚と行動
- ・ スマホやSNSの使い方
- ・ 読書習慣の定着
- ・ 課題解決力

△**さらに高めたい力**…実現度は高いが，さらに確実な力として定着させたい状況

- ・ ベル前着などの学校生活規律
- ・ 協働的な活動と意欲・充実感
- ・ あいさつによる関係づくり
- ・ 主体的なボランティア活動

(2) アンケート項目より

- 留意事項** ・ 上段の数値は平成29年度後期，下段の数値は平成28年度後期のパーセンテージ
- ・ 学年別，A～Dの到達度別の結果は，別紙データを参照

a. 学校全体に関わる内容

		実現度	実現度	実現度
		生徒 A+B	保護者 A+B	教職員 A+B
学校全体	1 学校では安心でき，楽しく過ごせる。	88	94	97
		88	89	82

- 実現度は高いが，「楽しくない」と感じている12%の生徒の把握に努め，理解，個別の取組を進めることは重要である。

b. 確かな学力に関する内容

		実現度	実現度	実現度
		生徒 A+B	保護者 A+B	教職員 A+B
確かな学力	2 授業はわかりやすい。	76 ▼70	71 63	86 ▼64
	3 授業中は，私語をせず，集中し，落ち着いて取り組んでいる。	66 ▼64	88 80	74 ▼59
	4 基礎・基本的な学習がわかり，学力が身についてきた。	77 74	73 66	91 77
	5 授業は，他の生徒と話し合っ考えるなどわかりやすく工夫されている。	76 ▼68	74 69	69 ▼64
	6 家庭学習にきちんと取り組んでいる。	70 ▼64	66 ▼52	34 ▼32

- 基礎・基本的な学習内容の定着についての教員の手応えは高い。生徒に細目に伝える学習評価の工夫が生徒の自己評価，自信，さらなる意欲の高まりにつながるポイントと考えられる。

▼**主体的な学習姿勢** … 学習規律の確立とともに「主体的で深い学び」を目指した授業改善をポイントに次年度に継続が必要な課題としてとらえる。

▼**家庭学習習慣の定着** … 家庭学習の日の設定が本年度からなくなったが，その影響はあまりないようだが，次年度に継続が必要な課題としてとらえる。
課題配布・提出・点検といった習慣の確立を目指した全体的な取組，家庭学習の定着を図るべき生徒を焦点化した個別の取組，

様々な方法から検討し、年度当初から取組を進めたい。

c. 豊かな心に関する内容

		実現度 生徒 A+B	実現度 保護者 A+B	実現度 教職員 A+B
豊かな心	7	将来の仕事や進路について家庭で話すことがある。 69 63	69 62	43 36
	8	部活動などの自主的な活動に意欲的に取り組み、充実感がある。 80 77	84 73	69 77
	9	生徒会や係活動などに意欲的に取り組み、充実感がある。 76 74	78 70	74 77
	10	学校行事に意欲的に取り組み、充実感がある。 82 80	86 80	80 82
	11	家族の一員として役割や責任がある。 80 74	70 58	57 59
	12	学校のきまりや公共のマナーを守り、規範意識が身についてきた。 91 88	95 89	71 68
	13	家族や近隣の方にすすんであいさつし、良い関係をつくろうとしている。 80 ▽76	81 ▽75	71 ▽73
	14	保護者は授業参観や学校行事にできるかぎり参加している。 74 73	71 64	86 86
	15	保護者はPTA活動や地域行事、ボランティア活動にできるかぎり参加している。 60 59	54 47	86 77
	16	人の嫌がることや悪口を言わず、困っている人を気遣うことができています。 84 81	91 87	54 ▼41

▽ あいさつによる関係づくり … 「あいさつ」はできているが、さらに人間関係を広げ、深める「会話」しようとする姿勢まで高めたい。引き続き、外部人材を活用した様々な機会を設定し、推進していく。

▽ 主体的なボランティア活動 … 保護者、生徒ともに参加を自主性に任せるような機会が設定できておらず、学校、学校運営協議会、地生連、PTA、おやじの会などと検討していく。

▼ 近な人権感覚と行動 … 昨年同様、生徒の意識に比べ教職員が感じる実現度は低い。冗談、やからかい、いたずらなど、日常的な行動の中で教職員が見ると度を過ぎると感じるようなことがほとんどと思われる。
しかし、「いじめアンケート」の結果では「いじめと感じた」自分が8.8%、まわりの友人が19.1%いる。教職員で実態分析、対策の検討を進める必要がある。

▼ キャリア形成 … 家庭での話題の少なさから「松中ワーキング・ビジョン・プログラム」を実践した。一度のイベントではなく、ここで培った地域との関係をさらに活用できるよう、より個別に対応したキャリア形成を図ることが望ましい。

(例) ・学校生活という近い目標を見失いそうな生徒に興味ある将来の目標となる職業にふれさせ、今すべきことを見出させる機会を与えられないだろうか。
・家庭の経済状態などのために定時制進学にまじめに努力している生徒に対して、できれば技能が身につけていくような仕事(アルバイト)につく機会を与えられないだろうか。

d. 健やかな体に関する内容

		実現度 生徒 A+B	実現度 保護者 A+B	実現度 教職員 A+B
健やかなからだ	17	68 ▼59	68 ▼54	29 ▼41
	18	70 ▼62	69 ▼58	57 ▼59
	19	86 84	89 78	77 77
	20	67 68	80 74	57 59

▼ スマホやSNSの使い方 … 全国調査アンケートでの平日3時間以上35%が使用(全国18%)という実態，家庭のルールの不十分さ，SNSでの問題行動事案を考えると，引き続き対策が必要な重大な課題ととらえねばならない。

▼ 基本的な生活習慣 … 自律した生活への意識，実践力を高める取組，PTAと連携した保護者啓発など，さらに取組を推進する必要がある。

△ 校内環境の整備 … トイレ，そのスリッパなどの使い方，スノコの使い方をはじめ，校内3足制の徹底。

e. 独自の取組に関する内容

		実現度 生徒 A+B	実現度 保護者 A+B	実現度 教職員 A+B
独自の取組	21	69 ▼60	40 ▼38	69 ▼59
	22	74 68	67 63	54 50
	23	75 65	84 78	100 86
	24	80 72	83 77	94 73
	25	85 79	85 82	94 73

○ 教職員の姿勢 … 教職員自身の努力により，生徒にとって親身であり，熱意ある姿勢が数値となって表れている。